

乳健時身体計測の改善

鈴木 康之(東京小児療育病院)

1) 目的: 形態的な判定による小奇形を除いて、計測によって判定が可能な小奇形について、客観的な診断を可能にするような計測機器の開発を目的とする。
またこれらを含めたチェックシートは、検査項目の見落としを防ぐ意味が必要であり、特に発達健診などの二次健診体制に求められる。この様式についても検討したい。

2) 対象: 乳幼児健診児、

3) 方法: a) 乳幼児健診時に以下の項目を計測対象とする。

計測項目	: 対象小奇形
第三指長、第五指長/手掌長	; Arachnodactyly, Brachydactyly, Shortness of 5th finger
内眼角間距離/頭囲	; Telecantus, Hypotelorism
内・外眼角間距離/頭囲	; Short palpebral fissure length
角膜径	; Macrocornea, Microcornea
人中長	; Long filtrum, Short Filtrum

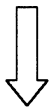
これらの計測に、小児に適するようにメジャーや簡易ノギスなどの機器の修飾を行う。
また簡易診断法の開発のために、写真資料の検討を行う予定である。

b) 健診チャートの作成

評価項目とその意義について、検索のデータが見渡せるようなチャートを検討する。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

形態的な判定による小奇形を除いて、計測によって判定が可能な小奇形について、客観的な診断を可能にするような計測機器の開発を目的とする。

またこれらを含めたチェックシートは、検査項目の見落としを防ぐ意味で必要であり、特に発達健診などの二次健診体制に求められる。この様式についても検討したい。